

## 揚子江洪水史復元のための下流部砂州堆積物掘削(YD15)概要 The outline of the sandbar drilling in the lower reach of Yangtze (YD15) to reconstruct flood history

齋藤 京太<sup>1\*</sup>; 多田 隆治<sup>1</sup>; Zheng Hongbo<sup>2</sup>; 入野 智久<sup>3</sup>; 王 可<sup>3</sup>; Luo Chao<sup>4</sup>; 綱澤 有哉<sup>1</sup>; 杉崎 彩子<sup>1</sup>  
SAITO, Keita<sup>1\*</sup>; TADA, Ryuji<sup>1</sup>; ZHENG, Hongbo<sup>2</sup>; IRINO, Tomohisa<sup>3</sup>; WANG, Ke<sup>3</sup>; LUO, Chao<sup>4</sup>;  
TSUNAZAWA, Yuya<sup>1</sup>; SUGISAKI, Saiko<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東大・理・地惑, <sup>2</sup>Nanjing Normal University, <sup>3</sup> 北大・地球環境, <sup>4</sup>Nanjing University

<sup>1</sup>University of Tokyo, <sup>2</sup>Nanjing Normal University, <sup>3</sup>Hokkaido University, <sup>4</sup>Nanjing University

東アジア夏季モンスーン (EASM) は東アジア全域に渡る水循環を駆動しており、その強弱や空間分布の変動は世界の人口の 1/3 に及ぶ人々の生活に大きな影響を与えてきた。そのため、過去の EASM 降水の空間分布の復元を通してその挙動や制御要因を明らかにすることは重要となる。揚子江流域は EASM の影響下にあり、流域の降水量-水流出量-堆積物流出量の間には正の相関があることが知られており、堆積物の供給源比は降水地域の分布を反映すると考えられる。また、揚子江では歴史記録に加え、19 世紀後半以降の水文観測データが存在している。

そこで、完新世後半における EASM の挙動復元を目的とし、2013 年夏に河口部沖において過去 6000 年の堆積物コア (YD13) を掘削した。しかし、少なくとも最上部過去 100 年分の堆積物が欠如していることが Cs 同位体比の測定から判明している。そこで YD15 コアでは、河口部内部の砂州を掘削し、YD13 コアの上部を補うとともに、過去 150 年間に揚子江から流出した細粒堆積物を分析してその供給源の変動を復元し、EASM 降水の観測記録と比較することにより、細粒碎屑物の供給源推定から降水域分布を復元する手法の妥当性を検証する。

本発表では、YD15 コアの岩相や堆積構造、色測定の結果等の基礎的な情報、および今後の分析計画等について報告する。